

身近な土木を描いてみよう！  
～土木に対する正しい認識を子供たちに伝える企画～

広島大学 正会員 ○日比野忠史，駒井克昭  
広島環境サポーターネットワーク 賛助会員 中村弘治

## 1. はじめに

土木のイメージが現実とかけ離れたところにあるように感じている。本来，土木工学は人々の暮らしに密着した学問であり，公共インフラ整備や公共事業による資本整備を行うことによって産業の発展や生活の質（衛生，防災，利便性）の向上に寄与してきた。しかし，近年メディアによって発信されている土木の情報においては，よい印象を与えるものは少ない。さらに，生活，財産を守るための事業は数10年単位で起こる災害を対象にしており，日常の生活では感じることはできないものであるが，防災に対する認識も深くない。一般的には土木に対するイメージは悪化している，あるいは無関心であるのが筆者らの認識である。

土木に対する正しい認識を子供たちに伝えることを目的として，2008年度から絵画コンクール「身近な土木を描いてみよう！」を企画し，昨年度，第2回の絵画コンクールを実施した。2回の絵画コンクールにおいて確かな手応えを得ることができた。本報告は絵画コンクールの目的，企画，運営等についてまとめ，今後，絵画コンクール等の土木に対する正しい認識を子供たちに伝えるための企画を行うための資料として記述するものである。

## 2. 絵画コンクールの企画

2008年度中国支部発表会では，広く一般市民への参加を募ることを目的とした市民フォーラム（フォーラムの一環として図画コンクールを実施）が実施された。市民に街づくりにおける土木の役割について考える機会として「太田川について考えるフォーラム」を，親子で土木について考える機会を持ってもらうために，図画コンクール「身近な土木を描いてみよう！」を企画した。

市民フォーラムは，土木学会が主催し，広島大学，広島環境サポーターネットワーク，国土交通省中国整備局が共催で行われた。また，後援は広島県教育委員会（生涯学習課），広島市教育委員会（市民局生涯学習課），中国新聞に依頼した。共催をお願いした広島環境サポーターネットワークは環境問題についての啓発を目的とした広島市環境サポーター養成講座を修了した人々によって，1995年に創立されたボランティア団体である（細部はHP <http://hiroshimakankyonet.com/profile/profile.html> を参照）。なお，第2回絵画コンクールの実施にあたっては広島環境サポーターネットワークに募集依頼・収集・審査・展示・返却まで委託しており，主たる事業は広島環境サポーターネットワークによって行われている。

## 3. 絵画コンクールの実施要領

絵画コンクールは次世代を担う子どもたちに身近な土木を描くことにより，普段生活している場所，何気なく見ているものが土木技術に支えられていることを認識して絵を描いてもらい，土木（環境）に親しんでもらうきっかけを子供たちに提供することを目的とした。実施に当たっ

The poster is titled "みんなで参加しよう 太田川について考えるフォーラム" (Let's all participate Forum for thinking about the Ota River). It includes the date and time "平成20年5月30日(金) 14:30~17:30" and the location "広島アステールプラザにて". The poster is divided into two main sections. The top section is for a "講演会 (14:30 ~ 15:30) 「太田川から見た広島の街づくり」" (Lecture 14:30 ~ 15:30 'City building of Hiroshima seen from the Ota River') featuring 太田川河川事務所 阿部 徹 (Chief of Ota River Water Affairs Office, Atsuo Abe). The bottom section is for a "パネルディスカッション (15:40 ~ 17:10) 「太田川を考える」 --- 環境と市民生活 ---" (Panel Discussion 15:40 ~ 17:10 'Thinking about the Ota River' --- Environment and City Life ---). It lists panelists: 太田川河川事務所 阿部 徹, 広島市環境サポーター 保光 義文, 藤本 雄, 広島市水の部 新上 敏彦, 中国電力 吉岡 一郎, and 広島大学 河原 能久. It also lists the host as 広島大学 中国支部 and the sponsor as 広島大学工学部第四科 (社会基盤環境工学). The poster also mentions a drawing competition "図画コンクールの表彰式 17時15分からです!" (Award ceremony for the drawing competition starts at 17:15!).

図1 市民フォーラムのチラシ

**第1回「身近な土木を描いてみよう！」  
図画コンクール作品  
大募集！！**

**街は土木であふれてる！**

土木に関するどんなことでも描いてください。トンネルや橋を作るブルドーザーやダンプカー、山や川や海にすむ生き物も守りたい。街にあるいろいろなことが土木に関係があります。

道路も港も鉄道も、飲み水も電気も、みんな土木技術が支えています！  
住みよい街を作るのが土木の役目です。

**募集期間** 平成20年3月3日(月)～4月25日(金)  
**応募方法** 作品ごと、応募用紙に必要事項を記入して、下記住所まで送付してください。応募用紙はこのチラシのものを御利用いただくか、各自で応募用紙の必要事項を記入した紙を送付してください。  
ホームページからダウンロードもできます。  
**応募上の注意** ハフ折り用紙(271mm×382mm)を使用してください。入賞作品の著作権は主催者に帰属するものとします。  
**<お問い合わせ、送付先>**  
〒730-0011 広島市中区基町 10-3 自治会館内  
土木学会中国支部 図画 係  
TEL: 082-222-2316 / FAX: 082-222-2496  
HP <http://www.jsce.or.jp/branch/chugoku/>

応募用紙(コピー用)  
題名  
氏名  
住所(〒 - )  
連絡先  
TEL  
eメール

(a) 第1回チラシ

**第2回「身近な土木を描いてみよう！」  
図画コンクール作品 大募集！！**

**街は土木であふれてる！**

土木に関するどんなことでも描いてください。トンネルや橋、それを作るブルドーザーやダンプカー、便利だけでなく、山や川や海にすむ生き物も守りたい。街にあるいろいろなことが土木に関係があります。

道路も港も鉄道も、飲み水も電気も、みんな土木技術が支えています！  
住みよい街を作るのが土木の役目です。

※募集作品の募集は3月13日(木)～25日(金)正午まで。  
広島市はらづくり市民交流センター(広島市南区中島4-20-1)3Fで行います。  
※表彰・作品展覧に関するお知らせはホームページと応募用紙に記入されたEメールまたはEメールによって行います。

**募集期間** 平成21年3月7日(月)～10月9日(金)  
**応募方法** 作品ごと、応募用紙に必要事項を記入して、下記住所まで送付してください。応募用紙はこのチラシのものを御利用いただくか、各自で応募用紙の必要事項を記入した紙を送付してください。  
ホームページからダウンロードもできます。  
**応募用紙** ハフ折り用紙(271mm×382mm)を使用してください。  
入賞作品の著作権は主催者に帰属するものとします。  
主催: 土木学会中国支部  
送付先: 〒730-0807 広島市南区中島4-1  
広島大学工学部第3館 3F 図書  
TEL: FAX: 082-4364-7818  
URL: <http://www.jsce.or.jp/branch/chugoku/>  
共催: 広島県土木学会  
後援: 国土交通省中国地方整備局・中国新聞社  
※この事業で得た個人情報は本事業の連絡などに使います。土木学会中国支部で適正に管理し事業終了後に廃棄します。

|       |        |
|-------|--------|
| 姓 名   |        |
| 氏 名   | 男・女    |
| 学 校 名 | 小学校 学年 |
| 住 所   | 〒 -    |
| Eメール  | FAX    |

(b) 第2回チラシ

図2 図画コンクールのチラシ

では著者らが中心となって、諸団体との調整を行った。広島県と広島市の教育委員会に後援を依頼したのは小・中学校に絵画の作成依頼をスムーズに行うためである。

チラシの配布や作品の作成を小・中学校へ依頼する場合、教育委員会が後援することが望ましい。ただし、教育委員会の後援があっても教育委員会を通じて絵画の作成依頼が小・中学校にされるわけではない。

**「身近な土木(どほく)」って何を書けばいいのかな？**

**べんいな生活ができる町づくり**

車で移動するのってちんちんだよね。飛行機があれば遠くの国にだって行けちゃうし、電気があるから、エアコンもつけられる。いつでもきれいな水が水道からでてきちゃうんだよね。ほくたちは魔法の世界にいるみたいだ。でも、ほくたちは魔法をつかって便利な生活をしているわけじゃないんだ。土木の技術が、ほくたちの生活を便利にしてくれているんだよ。

**道路**

**鉄道**

**野球場**

**はし**

**安全に暮らしたいよね**

自然って、いつもはとってもやさしいのだけど、地震や台風って、すごくていんだ。たてものが壊れたり、大雨で川の水が家をおどったり、土木の技術で地震や台風からみんなの町を守らなくちゃいけないんだ。

**大水が町をのみこむ**

**ダム**

電気や飲み水をみんなにとどけたり、大雨から町を守ります

**大波が町をおどろ**

**でも～**

**たいせつな自然がなくなるのはいやだよ**

もうひとつだいじなことが、あるんだ。ほくたち人間だけが便利に生活すればいいわけじゃないけど、さかなやとちもきれいな水と空気の中ですみたいってことわすれちゃいけないよね。川にはいて、さかなをとったり、かにと遊んだり、自然から学ぶのもってたくさんあるよ。

**さかなが泳ぐ、きれいなかわいでいようね**

**おさ川(水辺のかっこう) たくさん学べるよ！**

**自然ってほんとうにたいせつだよ！人の生活だけではなく、そこにすむ生物や自然を守って生きたい。**

**土木は人の生活と自然を守ることの両方を考える勉強です！**

**■みんなの生活や自然をまもるのが土木(どほく)です**

人間もさかなもとりもすべての動物が気持ちよくすめる町、そんな町づくりを土木の技術がサポートしています。そんなことを知ってもらいたくて、「土木」についての絵をかいてもらうことにしました。土木に関係することは、みんなのまわりがいっぱいあります。これも「土木」だって、きついてももらえたら、とってもうれしいです。

**■土木という言葉について**

土木は、  
英語で Civil Engineering といいますが、  
この Civil とは「市民」「文明」という意味です。  
つまり、土木(Civil Engineering)とは、  
「市民のための工学」  
あるいは  
「市民の文明的な暮らしのために、  
人間らしい環境を整えていく仕事」  
を意味する言葉なのです。

<http://www.jsce.or.jp/contents/pamph/index.shtml> (参考になるホームページです)

土木学会では土木を理解していただくために、いろいろな活動を行なっています。

図3 親子で「身近な土木」を理解するためのHP

### (1) 絵画コンクールを周知させるために

絵画コンクールの周知するために主に図2に示したチラシを作成した。第1回の絵画コンクールではフォーラムのチラシの裏に印刷し、フォーラムと絵画コンクールの両方を知らせることにした。第1回では5000枚、第2回では4000枚のチラシを作成し、第1回、2回とも環境サポーターに3000枚の配布を依頼した。環境サポーターネットワークはボランティアで小学生に対し、特別授業を行っており、そのネットワークによって小学校にチラシを配布した。この結果、第1回では220枚、第2回では350枚の絵画が応募された。そのほとんどは環境サポーターネットワークによって集められた。絵画の募集はチラシの配布のみでは難しく、中国支部として配布したチラシによっては10枚程度の応募であった。

チラシは小・中学生を対象としたものではあるが、あえて簡単な内容にしていない。チラシは小学校で配布し、家庭で親と相談してもらうこと、すなわち、親子で土木とは何か？何を描けばいいのか？を親子で相談してもらうために親の世代が理解し、説明できる（し易い）ことを目的として作成した。

### (2) 土木を知ってもらうために（何を書けばいいのか）

「身近な土木」を理解してもらうため、図3に示す説明資料「身近な土木（どぼく）って何を書けばいいのか？」を作成し、支部HPに掲載した。HPでは便利な生活、安全な生活、自然の保全をわかりやすい構造物の絵、写真を使い、親子で会話するための資料となる内容になることを心がけた。

### (3) 必要経費

第2回絵画コンクールでは、印刷費（チラシ・チラシデザイン代・優秀作品カレンダー）、事務費（郵送料・手数料・コピー代・文具代）、賞品費（参加者全員×鉛筆2本）、企画費（会議費6回・作品収集代）、雑費（事務委託・展示に関するアルバイト代）で合計約520,000円の経費が必要であった。第1回絵画コンクールでは主な実務は広島大学で行ったが約510,000円を要した。なお、一般的に行われる絵画コンクールでは絵の返却や参加者全員への参加賞の配布が行われないが、本絵画コンクールでは参加者全員に対して作品の返却、参加賞の送付を行った。

### (4) 優秀作品の決定と作品の展示・表彰

全作品の中からカレンダーの表紙となる最優秀作品1点、各月の絵となる優秀作品12点、および佳作50点の計63作品の入選作を選考委員5名（広島大学、環境サポーターネットワーク）で選んだ。入選作品は約1週間、広島市まちづくり市民交流プラザにおいて展示した（写真1）。さらに、優秀作品を用いた写真2に示すカレンダーを作成し、副賞として優秀作品作成者に表彰式で進呈した。第1回絵



写真1 佳作の展示状況（広島市まちづくり市民交流プラザ）



写真2-1 優秀者の絵を集めて作成したカレンダー（第1回）



写真2-2 優秀作品カレンダー  
（第2回 土木の日も印刷した）

画コンクールでは市民フォーラムにおいて（図 1），第 2 回絵画コンクールでは土木ふれあいフェスタ in 広島において表彰式が行われた．図 4 は第 1 回表彰式での紹介スライド，写真 3 は第 2 回表彰式での作品展示と表彰式の様子を示している．表彰式には体調不良の子供を除いて全員が親子で参加する等，表彰式に参加する希望があり，著者らが考える以上に表彰式は参加者にとって有意義なものであることがわかった．また，副賞に作成したカレンダーは，さらに購入したいとの家族からの要望等があった．このため，第 1 回では 10 部のカレンダーを副賞としたが，第 2 回では 20 部とし，第 1 回に副賞とした図書券は第 2 回では廃止した．また，表彰式を土木フェスタの中で行うことで土木展示に興味を持たれる等の二次的効果もあり，表彰式は様々な効果を考慮して実施することが必要である．

#### 4. おわりに

道路，橋，ダム，護岸，野球場，雁木等の土木構造物，工事風景，自然環境・景観等の土木に関する広範な対象をテーマとした作品が応募された．作品からは土木を表す風景がコンクールを通して理解されていることが伺えた．作品のテーマから子供たちに土木の絵を描いて貰う効果は大きいと言える．ただし，具体的な効果は数年先に出てくるものであり，今後とも継続して実施していくことが必要である．

将来に向けて，土木に係る一人一人が真剣に，自然・環境と産業との問題に取り組んでいる．このことを知らせるために絵画コンクールを少なくとも第 10 回までは継続し，子供たちに「土木」の正しい認識を伝え，多くの子供たちが将来，土木に関する仕事に携わっていただければ，絵画コンクールを実施していく喜びが得られるであろう．

**謝辞：**広島環境サポーターネットワークのメンバーの方々には，チラシの配布，作品の回収・返却等，絵画コンクールのために多大なるご尽力をいただきました．ここに記して謝意を表します．



図 4 第 1 回表彰式での案内スライド



写真 1 第 2 回絵画コンクール表彰式の様子